

【議事】定9

(2) セレーネ「月に願いを！」キャンペーンについて

JAXA の矢代広報統括が資料 9-2(セレーネ・キャンペーン)を説明し、短い質疑応答があった。

今回の応募数が伸びなかったのは、メッセージを書くのが煩わしかったとの意見もあったが、ネットからの応募の 90%がメッセージ付であった。また、はがきでの応募に、綺麗な絵が描かれているものが多くあったので、活かすように企画したいと考えている。

池上:海外からの応募が多いですね。

JAXA 矢代:はい、アメリカの惑星協会にやって頂いた。「はやぶさ」のときも、海外の応募の方が多かった、今回辛うじて国内が、後で逆転した。惑星協会は、大変頼りになる。

(3) 技術試験衛星 型(ETS- ；きく8号)の現状について

JAXA の辻畑プロマネが資料9-3-1(ETS- 初期機能確認)を説明したあと、短い質疑応答があった。

松尾:このスケジュールは、事前の予定に比べて、どのようになっているのか。

JAXA 辻畑:最初、定常移行を4月中旬を考えていたので、1週間余の遅れで進行している。

続けて NICT の大森理事が資料9-3-2(同 ミッション機器以上の現状)を説明した後、質疑応答が行われた。

【説明の補足】

NICT 大森:故障箇所の機能回復について、他に悪影響を与えないように十分留意しながら、あらゆる可能性を追求していきたい。

松尾:直接原因はショートであり、その箇所と原因は不明である。回復処置としては、ヒューズの溶断が考えられるが、地上で模擬した結果を踏まえると、必ずしも楽観を許さない。ただ、今後、この方向を追求したいと理解したが、よろしいか。なお、ヒューズが切れなかったことの原因も検討を続行する。

NICT 大森:直接の原因ではないが、其処は非常に大事なことある。復旧の足枷になっている、重要な事象と考えており、精査をしているので、明らかになった段階で報告する。

青江:この作業(原因究明、対策の一連の作業)の今後のスケジュールを示して欲しい。

NICT 大森:作業は継続して行なうが、作業結果の評価について総務省が別に計画していると聞いている。竹内課長から説明を

して頂と良い。

青江:先ずは、NICT の原意究明作業のスケジュールを聞きたい。

NICT 大森:先程 JAXA から説明があったが、初期チェック期間は現在の体制で継続したい。そこで原因究明が終わればいいが、長引きそうであり、基本実験が始まった後も、継続して対策をし、衛星が使える時間は、衛星バッテリーに影響が出ないことを検証し、復旧作業を行ないたい。

青江:今の話は、復旧のための可能性を追求する作業であるが、それとともに原因究明はどうなっているのか。

NICT 大森:それも同じように行なう。等価回路も作ってあるので、それを使う。ただ、ソフトショートをどうやって再現するのか、技術的に難しい。

総務省武内:大森理事が説明したが、総務省としてもショートの原因究明、ヒューズが切れない理由、対策の妥当性などについて、公正中立な立場から取り纏めて行きたいと考えている。独立行政法人の評価委員会の中に、今月にも組織を作って作業を進める予定である。詳細について、今週中に総務省から報道発表する予定である。ワーキンググループは、今月作業を開始し、3ヶ月程度を目処として纏めて行きたい。

松尾:今のお話だと、機能チェックのような通常の運用に関わる話と、故障解析と復旧作業を並行して進めるということである。ぜひ、連携を密にして、混乱を招かないようお願いしたい。